

7.2.3 臨床的面接法

- 構造化面接：質問票に従って同じ言葉使いと順序で質問
診断面接（SCID） - 心理障害の確定
- 非構造化面接：質問する内容を決めず対象者の自由な語りを促すよう臨機応変に対応
臨床面接（心理療法、カウンセリング）
- 対象者の語りを共感的に聞き、信頼関係を形成することを前提　ロールプレイ
- 半構造化面接：質問内容はある程度決めるが発言に応じて柔軟に対応
受付面接・初回面接　心理アセスメントの必要

7.2.4 臨床的検査法

- 心理アセスメント - 知能検査、質問紙法、神経心理学的・生物学的検査：客観的査定
- 心理的援助 - 投映法：対象者との関わりの中で
対象者が安心して自由に自己表現できるような信頼関係、適切な質問を返す
- 研究者の経験的判断が関与　解釈の訓練の必要
関係の中で自らイメージを表出する体験 - 絵物語法や箱庭の実習

7.2.5 臨床的観察法

- 行動分析 - 事象見本法（組織的観察の一種）を採用　非参加観察
特定した行動に関して事前にカテゴリー化してチェックリストを作成、それに基づき行動観察して記録を作成
- 心理的援助の観察 - 参加観察
対象者との関係に参加しつつ観察するというセッティングに慣れる必要
参加メンバー間の関係のダイナミックスの体験学習 - エンカウンターグループや心理劇
参加しつつ、そこでの出来事を観察し、記述する技能 - フィールドワークの方法の学習
+ 活動に積極的に関与し、対象に働きかける実践活動
利点：研究者が対象者に直接様々な刺激を与えつつ、反応を観察できる
実践　・ 厳密に観察を行うためには場面を限定　客観的に観察
・ ビデオ撮影し、記録として分析する方法

7.3 臨床実践の研究法

7.3.1 データ処理と研究法

実践を通しての研究にあたって

- ・ 研究と実践は切り離して考えられない - 実践過程そのものが研究
- ・ 相互主観的な関係性が重要な意味をもつ
研究者自身が主観的経験も含んで実践課程を振り返りつつデータを分析する必要

7.3.2 会話分析

- ・ 発話データの収集　書き起こし（言語・非言語データ記載：トランスクリプト）　分析
臨床面接のコミュニケーションの見直し、技法の開発
- ・ 臨床心理士とクライアントという基本単位から実践活動の成り立ちを記述し分析
会話の特徴や有効な心理的援助を可能にする要因を明らかに
- ・ 会話過程を記述し、その分析を通して日常世界で前提とされている秩序を明らかに

- エスノメソドロジーの技法
- ・ 会話する者の間の相互行為の中に連鎖を見つけることが重視される

7.3.3 事例研究

- ・ 個人を対象とした研究が多い - 個別の事例から人間の心理を探っていく
- ・ 何らかの心理的問題をもっている
- ・ 事例の具体性、個別性の重視が前提

事例研究が研究法として意味を持つ条件

新しい技法の提示

新しい理論や見解の提示

治療困難とされるものの治療記録

現行学説への挑戦

特異例の紹介

抽象的仮説やモデルを構成、読者を納得させる方法論に基づき提示

そのためにすべきこと

事例の位置づけの明確化

- ・ 新奇な事例 - 先行研究のレビュー、その事例の研究価値の明示
- ・ 典型例 - 典型例であることの明示

事例の歴史の記述 cf. ライフヒストリー研究

事例経過の記述 - どのような介入がどのような効果が

複数の事例研究を組織的に組み合わせる

7.3.4 実践的フィールドワーク

・ 社会的現実介入する実践活動のメンバーとして参加

・ 実践活動の過程との関連で現実の変化を記述、研究

cf. フィールドワーク - 介入なし アクションリサーチ - 研究者として参加

記述 - リサーチクエッションに従いデータ収集、フィールドノートに記述

- 実践活動の展開を尊重し、それとの関連を重視してテーマを絞っていく

cf. フィールドワーク - 研究者のペースでテーマ絞る

- ・ 活動の行われる社会的環境を記述し、その意味を明確化

- マルチメソッドを活用（観察法・検査法・面接法）

- ・ 通常知りえないような活動の方針や現場の事情を知るチャンスあり

より深く現場活動の把握

but 観点の制約を受ける危険性 自由な視点を維持する努力

倫理の問題

分析 - グラウンデッド・セオリー参照

フィールドノートの読み返し 様々な角度からのデータ比較

データの内容を収縮し複数の単位にしてコード化 複数コードの分類整理

抽象度の高いカテゴリ構成 カテゴリ間の関係検討 モデルや理論の提示